

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|---|-------|-----------|
| 事業所番号 | 4070100989 | | |
| 法人名 | 株式会社友愛システム | | |
| 事業所名 | グループホーム友愛 | | |
| 所在地 (電話番号) | 〒800-0045 北九州市門司区青葉台6番1号 (電話) 093 - 371 - 1208 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部 | | |
| 所在地 | 北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年6月20日 | 評価確定日 | 平成21年8月5日 |

【情報提供票より】(平成21年5月20日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------|--------------------------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 8 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 7 人 | 常勤 | 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.5 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------------------|--|--|
| 建物構造 | 木 造 | | |
| | 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--------------------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 17,000 円 | |
| 敷 金 | 有(円) 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(300,000 円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,500 円 | |

(4) 利用者の概要(月 日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 1 名 | 女性 | 8 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 85 歳 | 最低 | 79 歳 | 最高 | 90 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 協力医療機関名 | せの内科循環器科医院・健和会大手町病院・新小文字病院・藤井歯科医院 |
|---------|-----------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な高台の住宅街に、緑に囲まれたグループホーム友愛がある。居室から開門海峡が一望できる恵まれた環境にあり、山々の四季折々に変化を眺めることができ、居室に居ながら四季の移ろいを感じることができる。現在、認知症対応型通所介護・介護予防通所介護を行っており、入居者が在宅へ復帰したことを機会に、本人・家族の要望で開設されている。施設長の両親が住んでいた馴染みの場所にグループホームを開設しており、地域との連携も良く、地域の高齢者との交流も行われている。今後は地域や様々な関係者との連携により、地域密着型サービスの役割を果たすべく、更なる発展が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価では、家族への報告が課題となっていたので、毎月「友愛だより」を発行し、職員の紹介・行事の様子とともに、個別のコメントを書いて家族に報告するようにし、好評を得ている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の自己評価は施設長が中心になって、職員全員で話し合い自己評価を作成し、改善に取り組む方針を作成している。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 運営推進会議は、民生委員・町内会長・婦人会会長・家族会代表・地域住民代表として老人会長・包括支援センターの職員及び保健師の参加により、2ヶ月に1回定期開催している。会議内容は活動状況の報告を中心に意見交換を行い、認知症予防の通所介護開設、開かれたグループホームとして近隣への情報発信等、今後の取り組む方針を毎回決めている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) |
| | 契約書に苦情処理について明記し、十分時間をかけて説明している。玄関には意見箱や苦情相談についての案内ポスター、外部評価の家族アンケートを掲示している。また介護相談員の受け入れを行っている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 両親が住んでいた敷地にグループホームを建設したため、地域との連携はスムーズに行なわれており、地域の環境美化運動への参加や、ホームの行事に地域の方々に来訪してもらい、地域との連携を深めている。地域の民生委員と福祉協力員の協力により、小学3年生の訪問を受け交流を深めている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| .理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 | 入居者、家族、地域の人々、福祉・医療関係の人々、行政との関係づくりを謳った理念を掲げ、地域の人々が気軽に訪問し自由に交流できる環境作りや、地域活動への参加に努めている。 | | |
| | | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み | 日々のケアが理念に基づいたものとなるように、事例を示して職員間で話し合いが行われ、共有と確認により実践に向けて取り組んでいる。 | | |
| | | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい | 千客万来の精神は、開設以来全職員に周知徹底されている。イベントや行事のある毎に理念を添え書きして、地域の公民館・福祉サービスセンター・町内などに回覧して、地域の方々の参加を呼びかけている。また地域の環境美化運動に参加し、交流に役立てている。 | | |
| | | 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 | 評価については、その意義とねらいを全職員理解し、結果については真摯に受け止め、検討を行いながら積極的に改善に向けて取り組んでいる。また評価結果については、家族や来訪者等が自由に見ることが出来るように、玄関に掲示している。 | | |
| | | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み | 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、家族・地域代表・地域包括支援センター職員等の出席がある。ホームの方針や活動状況の報告、また1日の生活やイベントなどをビデオ等にて紹介している。意見交換を踏まえて、今後の取り組み課題の作成を行っている。 | | |
| | | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | | | |

グループホーム 友愛

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 | 介護サービス相談員の受け入れを行っている。また運営推進会議に介護サービス相談員に出席を依頼している。 | | |
| | | 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | | | |
| 7 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 | 現在、入居者が成年後見制度を活用しており、担当者の定期的な訪問の機会には話し合いが行なわれている。また困難事例に関しても、関係各機関への連絡調整を依頼するなど、解決に向けての支援を行っている。 | | |
| | | 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。 | | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | 家族等への報告 | 定期的に電話や文章で報告している。毎月発行している「友愛だより」で職員の紹介や行事等の報告を行っている。また個別に日常生活の様子・金銭管理の収支・健康状態についても報告をおこなっている。 | | |
| | | 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | | | |
| 9 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 | 運営推進会議は、家族意見の表出の機会としても積極的に活用されており、運営に反映させていこう取り組んでいる。ホーム内には意見箱の設置があり、行政等の相談窓口の案内も行っている。 | | |
| | | 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | | | |
| 10 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 | 現状として異動は行われていない。入居者・職員の馴染みの関係づくりが重要であると考えており、働きやすい環境づくりにも配慮が行われている。 | | |
| | | 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | 人権の尊重 | 職員の採用にあたっては、男女・年齢を問わず、介護に対する考え方や人間性を重視している。また社会参加や自己実現の意欲が持てるよう、有識者の研修や講演会等への参加も促している。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 | | | |

グループホーム 友愛

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 12 | 20 | 人権教育・啓発活動 | 地域の市民福祉センターや公民館で高齢者の人権に関する勉強会等が開催される場合は常に参加し、職員への人権教育・啓発活動に取り組んでいる。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。 | | | |
| 13 | 21 | 職員を育てる取り組み | ホーム内での勉強会や外部研修への参加、他施設の見学等を行っている。また資格取得に関しても、配慮が行われている。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | | | |
| 14 | 22 | 同業者との交流を通じた向上 | 開設して5年目になり、同じ時期に開設した同業者との交流があり、良いところは積極的に取り入れ、困難事例や同じ悩みの解決策等を検討し協働関係が構築されている。今後は他地域の同業者との交流を予定している。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | | | |
| 2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | 馴染みながらのサービス利用 | ホームの雰囲気徐々に馴染めるように、本人・家族に繰り返し来訪してもらい、関係づくりに配慮しながら、安心してサービスが利用できるように柔軟に支援している。体験入居にも対応が行われている。 | | |
| | | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係 | アセスメントから一人ひとりの、今までのライフスタイルを把握し、入居者の趣味や特技を活かして、楽しく過ごせるように支援している。 | | |
| | | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | | | |

グループホーム 友愛

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|-----|---|
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | 思いや意向の把握 | 日々の暮らしの中で、入居者の言葉や表情、行動などから真意を汲み取り、思いや意向の把握に努め、職員間で共有している。 | | |
| | | 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | | | |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画 | 職員の日頃の関わりの中で気がついたことや、入居者・家族の希望を踏まえて、自分らしく暮らせるように介護支援専門員を中心に話し合いが行われ、介護計画を立てている。 | | 生活歴の把握等、アセスメントの充実により全体像を把握し、個別・具体的な介護計画作成が望まれる。 |
| | | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | | | |
| 19 | 39 | 現状に即した介護計画の見直し | 状況が変化した場合は随時、介護計画の見直しを行っている。困難事例等はかかりつけ医、介護サービス相談員、地域包括支援センター等の意見を参考にし、現状に即した介護計画の見直しを行っている。 | | |
| | | 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | | | |
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 20 | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 | 共用型認知症対応通所介護及び介護予防通所介護を行っている。また遠方の家族については、食事の提供やホームの宿泊をすすめている。 | | |
| | | 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | | | |
| 4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | かかりつけ医の受診支援 | 入居者・家族の意向を尊重した、かかりつけ医への受診を支援している。協力医療機関には過去の病歴等を提出し、受診するように支援している。 | | |
| | | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | | | |

グループホーム 友愛

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 22 | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 | 全職員で話し合いを行い、看取りの方針を作成している。日頃から入居者・家族に方針を理解してもらい、意向確認に努めている。 | | |
| | | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | プライバシーの確保の徹底 | 個人情報等の記録及び取り扱いについては、全職員が秘密保持の原則を徹底している。入居者の尊厳を傷つけない言葉使いや対応に努めている。 | | |
| | | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | | | |
| 24 | 54 | 日々のその人らしい暮らし | 入居者の自主性を尊重した支援に努めている。介助が必要な場合は、声掛けしながら介助している。また特技や趣味を活かして、楽しく過ごせるように支援している。 | | |
| | | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | 食事を楽しむことのできる支援 | 季節に応じた旬の食材を選び、食事が楽しみになるように努めている。皮むき・胡麻すり・ぜんざいの団子作り・寿司の具作り等を職員と一緒に作り、また楽しく食事が出来る雰囲気づくりに努めている。 | | |
| | | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | | | |
| 26 | 59 | 入浴を楽しむことができる支援 | 入居者の要望や健康状態に応じて対応している。楽しく入浴出来るように全国の温泉の入浴剤を用いたり、職員とのコミュニケーションの場となっており、楽しい雰囲気を入浴に行っている。 | | |
| | | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | | | |

グループホーム 友愛

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 | 入居者の趣味や特技が活かせるように、また日常生活の中では、個々の力に合った役割が持てるよう支援している。全員で楽しめるものとして、買い物・誕生会・ハイキング・ボランティア等を計画し、メリハリのつく生活が出来よう支援している。 | | |
| | | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | | | |
| 28 | 63 | 日常的な外出支援 | 自然に恵まれた周辺環境を有しており、日常的に散歩に出掛けている。また入居者の希望により、買い物やハイキング、ドライブ等に外出し、市民センターや公民館での地域の方々との交流も行われている。 | | |
| | | 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | 鍵をかけないケアの実践 | 日中は玄関の鍵はかけていない。見守りを徹底し、安全に配慮しながら支援している。 | | |
| | | 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | | | |
| 30 | 73 | 災害対策 | 消防署の協力により、昼夜を想定した避難訓練を行っている。非常災害に備えて緊急連絡先・避難場所を指定している。また地域との協力体制も整備されている。 | | |
| | | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 | 栄養のバランスと食べやすさを工夫して料理している。午前中、午後、入浴後の水分補給は常に行っている。また食事量や水分量は記録し、情報を共有している。 | | |
| | | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | | | |

グループホーム 友愛

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | 居心地のよい共用空間づくり | 車椅子利用者が多くなり、和室をリフォームしてスペースを広げ、余裕をもって移動できるように空間づくりが行なわれている。調度品や設備などは家庭的なものを使用し、雰囲気づくりに努めている。 | | |
| | | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |
| 33 | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 | 居室には使いなれた家具(テレビ等)や生活用品、装飾品など持込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。現在、入居者によっては認知症が重度化するにつれ、清潔さや安全性を保つため、居室を簡素かしなければならぬ状況になっている現状である。 | | |
| | | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |